

Book Review



親と子の健やかな育ちに寄り添う 乳幼児の口と歯の健診ガイド 第2版

日本小児歯科学会 編

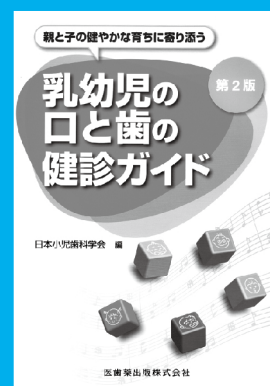


Reviewer

永山正人 Masato Nagayama

(日本歯科医療管理学会会長、札幌市・永山ファミリー歯科)

B5判、128頁
定価 3,990 円
(本体 3,800 円+税 5%)
医歯薬出版刊



21 世紀に入り、歯科医療を取り巻く環境の変化に伴い、歯科医療提供の内容にも変化が見られている。21 世紀の医療は、患者中心主義 (POS) の歯科医療提供であり、根拠に基づいた医療 (EBM) であることが必要であろう。

ところが、現実には、マスコミによって「医療常識のウソ」とか、全く正反対の考え方が示されることも少なくない。たとえば、むし歯予防のためには「食後 3 分以内に歯をみがくこと」という考え方と、「食後 30 分以内には歯をみがかないこと」というような考え方が、ほとんど説明もなく情報として出回っている。医療現場にいるわれわれ歯科医師は、学会などの見解を聞かないまま、患者からの質問に今までの常識で答えてしまうことがある。しかし、マスコミと違う見解は、患者に不信感を与えることも少なくない。

特に、乳幼児をもつ保護者からの質問は、育児、食育、口腔軟組織疾患、むし歯予防、フッ化物、歯並び、障害児・有病児治療、外傷、プレママ健診

(妊婦) など、多岐にわたっている。

このたび、医歯薬出版から「乳幼児の口と歯の健診ガイド」が、日本小児歯科学会編として上梓されたのを見ると、たった 100 ページ程度の本にもかかわらず、前述の内容がすべて網羅されているのには、おどろいている。

本書は、乳幼児の口と歯に関する法律や、国の取り組みをベースにしたテーマの構成になっており、小児歯科学会で認めたエビデンスのある、診査のポイントや指導に対しての統一した見解が示されている。執筆者はそれぞれの分野で著名な大学人と開業医 (専門医) 37 名となっている。1 章は乳幼児の口腔保健の考え方、2 章は乳幼児の口腔健康診査のポイント、3 章は相談・保健指導の Q & A となっており、臨床のなかで経験する内容が 36 の質問にまとめられ、それに答える形になっている。この 1~3 章は別冊子にして、子育て・育児本として、一般家庭において役に立つ内容ではないかと思う。また、われわれ歯科医師が保護者などに説明するときの内容として、必

要最低限のことが書かれているのでたいへん参考になる。続いて 4 章は障害・疾患のある子ども、5 章は歯の外傷となっており、外傷の予防についても言及している。

本書は、小児歯科専門医が日常的に乳幼児と保護者に接する機会の多いことから、保護者の育児に対する不安やあせりを「気づき」としてとらえさせるようなことを、専門的に行える力をつけてほしい旨のメッセージが込められている。これらの内容から、この本の使い方としては「乳幼児の口と歯の健康のガイド」として使用することはもちろんのこと、チェアサイドや、カウンセリング (コーナー) などに置いて、乳幼児の口と歯に関する指導書として、また保護者に説明する 1 つのツールとして使用するのに、たいへん便利な本だと思う。

また本書は、医療従事者だけでなく保育士さんや幼稚園・小学校の先生方などにも、ガイドとして利用できる本として推薦したいと思う (校医は各関係者に贈呈してはいかがだろうか)。